

志賀郷公民館がリニューアル

地域の小さな拠点に

改修工事を終えた志賀郷公民館の竣工式が6月9日、行われました。志賀郷地区の地域振興、世代間交流、次世代育成、農村都市交流の拠点として、機能的な間取りに変更し、老朽化した部分の補強を行いました。総事業費は約1億1800万円で、国の地方創生拠点整備交付金を活用しています。



1 木造の趣ある志賀郷公民館 2 1階の多目的室。右手が玄関で奥は会議室。左奥は調理実習室。右手前にカフェコーナーがあります 3 1階のカフェコーナー。多目的室とカウンターでつながっています 4 和室を改修して設けた1階のシェアオフィス（貸事務所）。ウッドデッキで多目的室や調理実習室とつながり、屋外での催し時に人が往来しやすくなっています

機能的な間取りに

志賀郷公民館は木造2階建約477・7平方メートル（昭和19年に村役場として竣工）。今回の改修では耐震補強のほか、利用状況や活用方法等を踏まえて間取りを見直し、志賀郷の地域活性化の「小さな拠点」を目指しました。

1階は、会議室、応接室の壁をなくし、48畳の多目的室に変更。あわせて、隣接する

資料室をカフェコーナーに改修し、流しや電磁調理器等を置きました。また、和室はフローリングのシェアオフィスに変更しました。このほか2階の大広間を、フローリングの部屋とし、トイレと湯沸かし室を新設しました。

改修前に2年間の議論

改修内容は、住民でつくる

気軽に立ち寄れる交流の場に



七不思議伝説の里・志賀郷地域振興協議会会長 前田拓己さん（志賀郷町）

改修案の参考にしたのは住民の声。アンケートでは「人と話るのが楽しみ」という回答が多く、広い多目的室とカフェコーナーを新設。気軽に来られるコミュニケーションの場にするを目指しました。また「1ターナーを増やしたい」という声を基に、2階の和室は残してトイレを新設したことで、志賀郷をじっくり見てもらう滞在拠点としても使えます。多くの人が気軽に立ち寄り、交流する拠点となるよう、楽しい仕掛けを考えていきます。

七不思議伝説の里・志賀郷地域振興協議会が平成27、28年度の2か年をかけてまとめた「理想の郷づくり構想」が基になっています。これは国土交通省の「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」形成推進事業の採択を受け、実施されたものです。

同協議会内に小さな拠点実行委員会を設け、メンバーを志賀郷地区全体から公募。アンケートや公開勉強会、ワークショップなど「右表」を経てまとめられた同構想に「公民館を軸とした気軽に集まり交流ができる小さな拠点づくり」をすることや改修案などが盛り込まれました。

志賀郷地区の「小さな拠点」の取組

平成27年度

- 小さな拠点実行委員会メンバーを住民から公募
- 地区内の各自治会で事業説明会を開催
- 住民向けアンケートで地域の課題等を抽出
- 公開勉強会「小さな拠点ってなんだろう？」を開催

平成28年度

- 「志賀郷地区の未来を描く会」ワークショップ開催
- 七不思議マート（買い物対策）、薪delほっこりサロン（間伐材活用）、ふゆやすみこども学習室（学習機会創出）、公民館オープンデイ（地区サロンの）4事業を試験的に開催
- 「理想の郷づくり構想」をまとめ、住民フォーラムを開催

平成29年度

- 組織体制を変更し「小さな仕事部会」「暮らし応援部会」「地域活性化部会」を設置
- 28年度に好評だった上記4事業を継続。「小豆ひらい」などの新たな事業も実施

善聞語録 100 回記念



平成22年3月に始まった市長コラム「善聞語録」。回を重ね、今月100回目を迎えました。8年4か月の連載を振り返るとともに、読者の声を紹介します。

「ビジョ」な市長を毎月読んで

第1回の題材は「水飲まぬ馬」。市長選に立候補を表明するか否かに思いを巡らせた当時の心境とともに、中国の故事を用いて、市政にかける強い決意を表明しています。

中東和平プロジェクトを振り返り、平和を願った「一滴の水を大河に」、現地現場主義によるふれあい出張市長室への意気込みを語った「頑張る人に報いる」、東日本大震災からの復興に思いをはせた「今こそ心を一つに」、職員に臆することなく挑戦しようと呼びかけた「三遊間のゴロ」、国民文化祭の里山合唱フェス

ティバルでの感動を伝えた「合唱のまち・綾部」、まじめで謙虚な綾部の風土を語った

「雪・雪・雪…」、緊迫する災害対応の様子をつづった「緊張の長い夜」、水源の里への熱い思いを語った「自然、可燃、不燃」、コミュニケーションスへの期待を述べた「ファーストペンギン」など、前職時代の経験なども交えつつ、市長としてのビジョンやその時々的心情を毎月、つづってきました。

バックナンバーはすべて市ホームページでご覧いただけます。今後も「善聞語録」をご愛読いただきますようお願いいたします。

市長を身近に感じます



穴田 勲さん 好枝さん(淵垣町)

9年続けている小学生の登校見守りボランティアや自治会活動の経験などから、市政に関心を持って広報ねっとを毎月読んでいます。市政の話題だけでなく世界の情勢なども取り上げられる善聞語録。市長を身近に感じられ、見聞も広まるコラムをこれからも楽しみにしています。

善聞語録



100

胡蝶の夢

中国・戦国時代の思想家、莊子の書に「胡蝶の夢」の寓話がある。莊子が夢の中で蝶になると、自分が莊子であるとは気づかないが覚めるとやはり莊子であり、自分が莊子なのか蝶なのか分からない。夢が現か、現か夢かー現実と夢とが区別できないことの喩だが、人生の現実を夢と観じつつ、夢も現実も二つながらに肯定する深い哲理を含む。

最近の報道をみると、官僚が上司の思惑に忖度したとかしなかったとか、利害関係者に会ったとか会わなかったとか、廃棄した「はず」のメモや機密情報が実

は残っていたとか、酩酊した拳句の不埒な言動を言っていないとか覚えていないとか：華麗な胡蝶とはおよそ縁遠い、さながら醜悪な蛾が群れるが如くである。しかしながら「真実」は一つであって、起こった理由や背景の解釈は異なることもあるが、その前提となる誰が見ても変わらないはずの事実一つ一つはやはり明らかにされねばならない。同じく中国上代に「綸言汗の如し」（皇帝の発言は、掻いてしまった汗のように身体に戻すことができない）という格言があり、時の権力者の軽率な言葉やその安易な訂正を戒めたものである。さて我が身も加齢のせいか物忘れが年々酷くなるにつれ、現から「胡蝶の夢」へのお誘いも多くなりがちだが、少なくともこの職にある限りは緊張感をもって現実の政に注力するものと自戒している。

山崎善也（綾部市長）

あやべ

水無月まつり

7月28日(土)



右／市民の協賛金とスポンサー企業の協力で今年も4000発の打ち上げを予定している花火大会 上／万灯の流し人になると、船上から花火を楽しめます 下／初参加する本場高知のよさこいチーム「サボタージュ」。総勢45人で踊ります

夏の最大のイベント「あやべ水無月まつり」(同実行委員会主催)が7月28日、今年も由良川河畔と市街地一帯で開催されます。

本場高知からよさこいチーム

当日は午前10時から、6年ぶりに花火大会と同日開催となった熊野新宮神社の水無月大祭が行われます。午後5時15分からは、西町アイタウンで「あやべ良さ来い・第1部」。今年は、高知よさこい祭りでの奨励賞を7度、3年連続受賞したチーム「サボタージュ」もゲスト出演します(第2部にも参加)。午後7時30分「万灯流し」が由良川を鮮やかに染め、午後8時、約4000

発の花火が夜空を彩ります。花火大会終了後は西町アイタウンで「あやべ良さ来い・第2部」が行われます。駐車場は、第2市民グラウンドや由良川花庭園、府綾部総合庁舎など12か所に1480台分を確保。駐車場や交通の状況はFMいかるの生放送でご確認ください。

水無月まつり前後の行事

6月29日(金)～7月29日(日) Ⅱあやべ水無月ギャラリ(Ⅰ・Tビル) 7月29日(日)午前7時～11時 リーン水無月 花火大会翌日のクリーン水無月では早朝からボランティアが美化作業を行います。毎

多くの人の来場を

綾部高校美術部2年 谷口清吾さん(福知山市)



今年の水無月まつりのポスターは、細かくはっきり描ける色鉛筆と、広くぼかして描ける水彩絵の具を使うことを意識。花火を目立たせるために、浴衣に柄がなく、影がつけやすい男性を観客にしました。特に苦労したのは花火。濃い色で鮮やかに見えるよう工夫しました。祭りのにぎやかさと雰囲気が伝わり多くの方が来場してもらえればと思います。

点火式参加者を初募集

実行委員会は今年初めて、花火大会の点火式への参加者を募集します。あなたの点火で花火大会が始まります。

対象／市内の小学5、6年生
定員／男女各1人(多数の場合は抽選)
申し込み／6月30日(土)までに、Ⅰ・Tビルかあやべ特産館、あやべ観光案内所、市役所で申込用紙を提出
問い合わせ／実行委員会 ☎(42)0701

年多くのごみが道端などに捨てられています。まつり当日はポイ捨てなどはせず各自でゴミを持ち帰りましょう。

協賛金、献灯、流し人募集

同実行委は現在、ふるさと花火への協賛金を募っています。1口1000円。6月の組回覧のほか、あやべ特産館やあやべ温泉、Ⅰ・Tビルなど市内9か所でまつり前日まで受け付けます。

そのほか、献灯(祈願1口100円)を7月11日まで、万灯の流し人を7月13日まで募集中。いずれも詳しくは実行委員会事務局(綾部商工会議所内) ☎(42)0701へ。



高速道路ウォーキングイベント

綾部市と舞鶴市は5月19日に、4車線化が進む舞鶴若狭自動車道の車道往復約6キロを歩くイベントを開催。約400人が参加しました。除雪車やトンネル点検車=写真=を展示。乗車体験も行われました。道路脇やトンネル内部を撮影するなど楽しむ参加者の姿も見られました。綾部パーキングエリアから舞鶴西インターチェンジまでの4車線化は今年中に完成予定です。

日中の架け橋45周年迎える

市日本中国友好協会（松本哲郎会長）の創立45周年記念式典・祝賀会が5月27日、味方町の京綾部ホテルで開催されました。祝賀会では感謝状贈呈や二胡・太鼓演奏などが行われ、参加者は節目を祝いました。

同協会は昭和48年に創立。スポーツや文化等を通じ、本市の友好都市である中国・常熟市との市民レベルの交流などに尽力してきました。本年度も、中国料理講座や初級中国語講座などを開講予定です。ご参加ください。



タイの学生が綾部のものづくりを学ぶ

綾部工業団地振興センターや京都工芸繊維大学と人材育成等に関する協定を締結しているタイのキングモンクット工科大学トンプリ校の学生17人が、6月4～8日の日程で来綾。市内15企業で工場見学などを行いました。同校でコンピュータについて学ぶヴァンさんは「どの会社も人を大切にしている。現状に満足せず、常に技術革新を求めていることが印象的」と話していました。（写真は5日、城山町の日東精工城山工場で）



卓上型対話支援装置を導入— 耳の聞こえにくい市民に寄り添う

市は6月4日、卓上型対話支援装置（7台）の運用を始めました。特に高齢者に聞き取りにくいとされる高音域の響きを強め、雑音を省くことで、窓口で対話しやすくする装置です。職員が耳の聞こえにくい市民に寄り添い、話し方の工夫（ゆっくり話す）や筆談などと組み合わせて使用。府内市町村では初めて窓口で常設し、多様なコミュニケーション手段の一つとして活用します。

